

牛頸ハセムシ窯跡群 1

大野城市教育委員会



調査の様子

大野城市の牛頸を中心にして形成されている窯跡群の中で、ハセムシ窯跡群（平野中学校の南）というグループがあります。団地になる計画があったため、発掘調査をしました。その中でもNo12地点とした所からは10基の窯跡が見つかり、たくさんの須恵器が出土しました。そして、驚いたことには、須恵器の甕かめの口のところに漢字がほられていたのです。和銅6年（西暦713年）に筑前国ちくぜんのかくに（今の福岡県北西部）に住む人が、税の一つの「調」として甕ちようを納めたという内容でした。



5号窯跡

5号窯跡

No12地点で見つかった10基の窯跡の中で5号窯跡と9号窯跡は大きなもので、小さな食器類と共に大きな甕を焼いていました。天井は崩れてしまっていてなくなりましたが、床や壁の下部が残っていました。何回窯を造り直したかを調べるため、十字に小さな溝を掘って観察しました。



1号窯跡

1号窯跡

1号窯跡は長さが3mほどの小型の窯跡で、食器類（坏身、坏蓋など）を焼いていたものです。中から左図のように多くの須恵器が見つかりました。並べているようなものもありました。完成品として使えるのに、どうして置いたままにしていたのでしょうか。

出土品

窯跡が10基もあったため大変多くの須恵器が出土しました。中でも注目されるのは漢字の刻まれた甕の破片です。筑前国手東里に住む大神君ら3人が調（税の一種）として大甕を和銅6年に納めますという内容です。書く内容、あるいは書く順番など古代の書物に出てくるものとよく似ています。大変貴重な発見でした。それでも手東里という地名が現在のどこに当るのかまだよくわかっていません。皆さんはどこだと思われますか。

